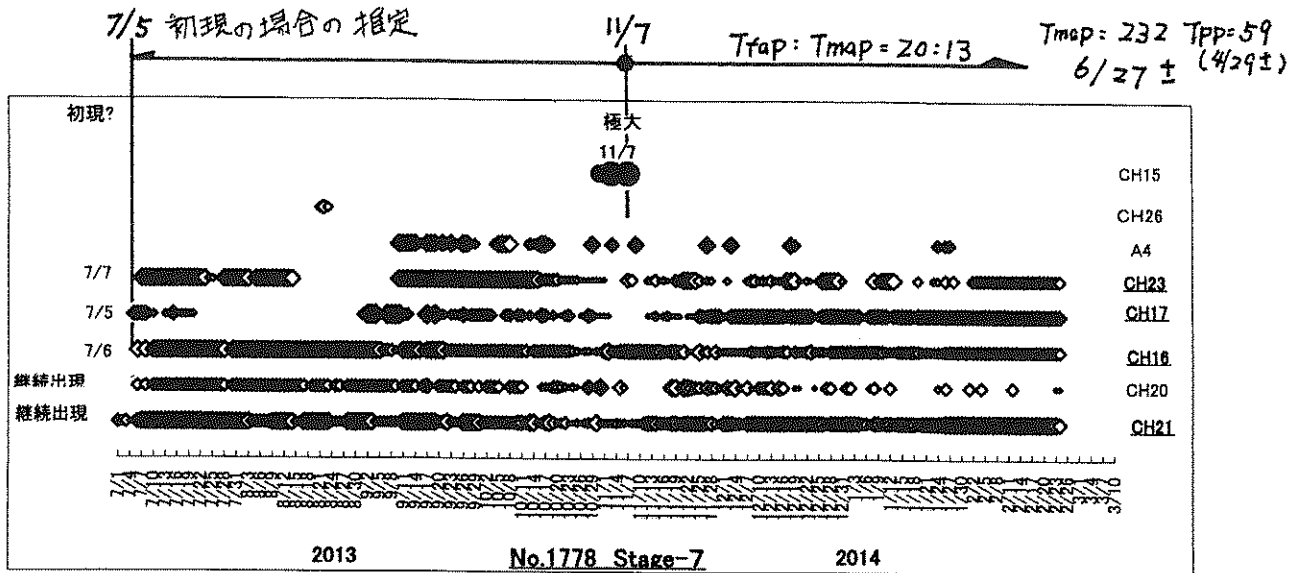


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆 続報  
前兆継続⇒6月下旬迄発生しない可能性有 前兆終息確認必要



No.1778=2008年7月初旬から5年8ヶ月近く前兆が段階的に変化しながら長期継続する過去観測例の無い特殊前兆の続報です。

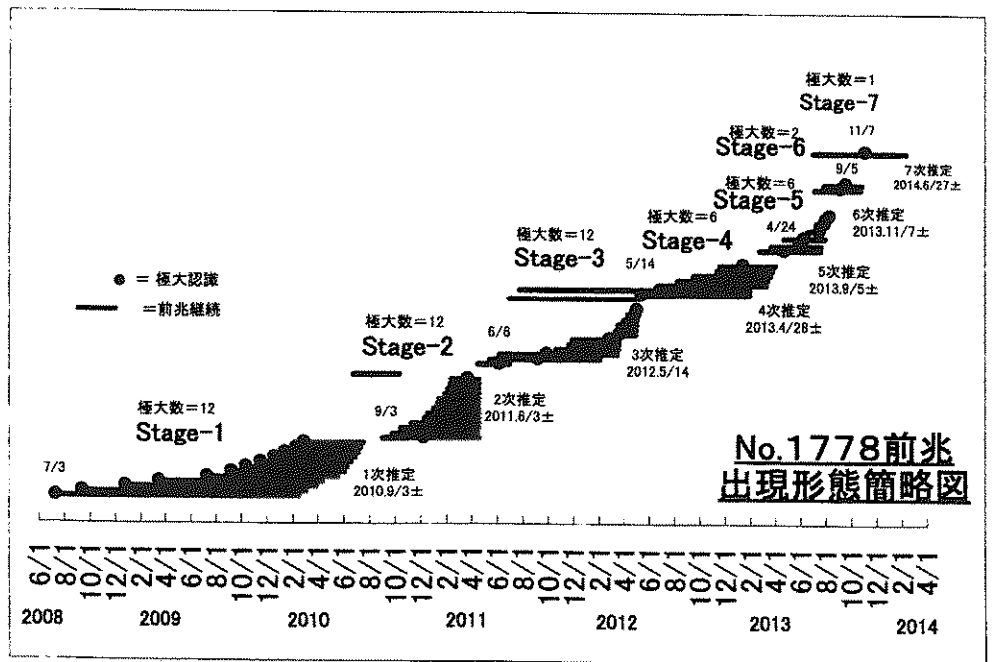
現在は第7ステージ前兆群を観測中であると言う認識です。

現在の第7ステージ前兆群は2013年11月07日(11/3 と11/7に極大認識)の極大のみで、新たな前兆も新たな顕著な極大出現も認められておりません。従いまして、今までの流れから見ましても、現在が最終段階である可能性も十分考えられると思われます。

さて、日々の観測情報で順次報告させて戴いて参りましたとおり、9/1 初現の場合=3/11±発生の可能性。その場合は、2/7±前兆終息。また8/21初現の場合=4/1±発生の可能性。その場合は2/23±前兆終息が計算されました。

しかし、2/24現在、右上図のとおり前兆は継続中で、前述の認識が誤りであることが明確となりました。

この観測事実から、第7ステージ前兆群(2013.11/7 極大認識)に対する前兆初現を、第6ステージ前兆群の中に求めなければなりません。第6ステージ前兆群の中で、2013年11月07日を示す前兆形態を削除し、2013.11/7とは無関係に継続している前兆をピックアップしますと、上図左端に初現の日付を記した、CH23=7/7 CH17=7/5 CH16=7/6 が初現である可能性が示唆されます。一番早い7/5を初現として計算しますと、発生は06月27日±となり、前兆終息静穏化推定=4/29±と計算されま



す。これより先に前兆終息の場合は、すぐに再計算致しますが、04月末まで前兆継続し、06月下旬の可能性が現状示唆されますことをご報告させて戴きます。

★報道の通り、当地は記録的豪雪となり、降雪から4日間毎日道路まで1mを遙かに越えた積雪をスコップで掘り続け、孤立状態を脱し、観測研究室に入れたのは2/18夕刻でした。天文台構内は除雪していない箇所は未だ80cm以上の積雪状態。このためと、別のNo.2317B + No.2443大型地震前兆の解析で、No.1778前兆のHP上での続報が遅れましたこと、深くお詫び申し上げます。